

渡辺貞夫 JAZZ LIVE 2006 “世界のナベサダを”…

ジャズライブ実行委員会

北播磨市民活動支援センターの「参画と協働」事業に挑戦しました。“世界のナベサダ”と後ずさりしながら、元来の楽しいこと大好きな性格が災いし、気がつけばやる気満々の実行委員に。チラシの配布やチケット販売にも自然に力が入り、メンバーが誇る驚娘(?)が、FM みつきいに出演しPR活動もしました。

本番は早くから楽屋入りし緊張感ただよう中での出演者のお迎え、リハーサルを会場の片隅で聞くなど、日ごろ出来ない経験をしたと喜んでいました。

実行委員全員が手探り状態で当日を迎えましたが、多くのお客様にお越し頂き、「迫力の素晴らしいサウンド」「各セッションとの競演に酔いしれた」との反響に思わず「ヤッター!」と叫び、充実感と共に胸に熱いものがこみ上げました。



ジャズライブを聴きにきてくださった市民の方からこんな言葉をいただきました。

3年ぶりの「ナベサダ」は僕にとって最高に心に残る90分でした。ナベサダ師匠、今日は体調が良かったとみえて、いい音を連発。バックもナベサダ師匠を盛り立て、心地よく鑑賞できました。27年来的なベサダファンとしては、盛り上がったところで、「ピッ」とか「ブッ」とかの愛嬌のある異音が聞こえないことをついつい願ってしまうのですが、今日はそんな心配など最初から吹き飛んでしまったです、さすがは昨日までのブルーノートでの演奏で鍛えた音色ということでしょうか。さて僕はカリフォルニアシャワーを聴くと、なぜか昔から涙がじんわりと浮かんで来て、頭の中

がボーっとして、遠くを見つめる目になり、とても切ない気持ちになりつつ、でも安心感に包まれた瞬間を迎えるのです。じわー、ぼー、むずむずって感じます。初めてカリフォルニアシャワーを聴いたのはいつのことだったでしょうか、たぶん中学生の頃だったでしょうか、FMラジオで聴いたのが、それともテレビのCMか。その頃の青春の記憶とこの曲が結びついているのかも。90分間、ナベサダ師匠はいつもと同じく大変楽しそうに舞台上で演奏されていて、聴いている僕も楽しかった。自分用の打楽器(タンバリンとか鼓とか)をバンドメンバーの邪魔にならないように叩いている姿が微笑ましい。MY DEAR LIFE、CALL MEなど、いつものコンサート曲も今日は一層大変素晴らしかったし、新曲(曲名を忘れてしまった)もノリが良くて、「あれっ、20歳は若返ったか」と思えるような力強さを感じました。家内も一緒に聴きにいったのですが、「とてもよかった」とのこと。エクラの託児ルームで預かって貰った1歳7ヶ月の息子のことをほんの少し忘れて、「ナベサダ」を心の底から楽しめました。家に帰ってもう一度、CDで聴いてみたくれど、今日の90分の音の方が遙かに良くて、「コンサートにもう一度行きたい」と家内と2人、意気投合でした。エクラの皆様、今回のジャズシリーズも楽しみにしていますよ。

今日は本当にありがとう。



おもしろ化石博 in エクラ サロンに化石がやってきた!

エクラミュージアム委員会

エクラミュージアム委員会では、7月26日～8月10日の期間でおもしろ化石博 in エクラをハートフルサロンにおいて開催いたしました。神戸市在住の井上おもしろ館、井上繁廣氏所蔵のコレクション100点以上をお借りして展示、7月30日にはワークショップとしておもしろ化石体験も開催いたしました。

展示場所がフリースペースの為、正確な人数の把握はできませんでしたが、子供達は勿論、多くの大人の方が足を止めて化石に見る姿を確認することができました。ワークショップにも100名以上の申し込みがあり、抽選の結果、午前、午後あわせて46名の参加で開催いたしました。今回はチラシを小野市、加東市、三木市の全小中学校に配布しましたのでその効果も大きかったのではないかと思います。

今後もエクラミュージアム委員会では、いろいろな企画に取り組んでいきたいと考えておりますのでご期待ください!



市民参加型イベント第1弾 ピアノマラソンII 「やらなきゃ始まらない」

ピアノマラソン実行委員会



「エクラのスタインウェイを開放し、北播磨の市民や音楽を愛する人たちに広く楽しんでもらいたい」

私たちボランティアスタッフの願いは7月15日、延々10時間の舞台を生んだ。

午前10時にスタートしたピアノマラソンは99人の手で引き継がれ、ゴールが午後7時50分。5歳から69歳まで、ピアノの初心者であり趣味で楽しむ人あり、音大生あり、セミプロの方ありと、幅広い層の音楽好きの方たちが各々真剣に演奏された。これが、イベントの力なのだろう。

そして、終了後。受付、会場、舞台裏で対応していたスタッフの口から、「連携プレーがいかに大事がよく分かったわ」「来年はこうすればもっとスムーズにできる」など、前向きな言葉がボンボン飛びかっただけでした。たった一日で、普段出会えないものと触れ、目的をもって人が集まる面白さを実感できるイベントだった。

例会報告

Regular meeting report

6月 ▶ 7月

これまで毎月の例会を、例会委員会が担当してきましたが、本年1月例会から、クスクスアルシェの各委員会・チームが例会を担当することになりました。

より多彩で個性のある例会を、また、より多くの方に興味を持っていただける例会を開催しようとの思いから、各委員会に担当をお願いしています。

6月 例会

担当 例会委員会



6月16日午後7時30分よりksks-Archeの6月例会を開催いたしました。「今、改めてお互いについて知ろう!」のテーマで、太田詳次郎さんによるゲームやワークショップで有意義な時間を過ごしました。

まずは円形になって、お互いの両隣の方とスキンシップし、これによって場の雰囲気が一気に和みました。その後は、目標設定、情報の共有化、機能的な組織を目指したゲームを行ないました。これはかなり興味深く、また、非常に楽しいゲームでした。

支援センターが組織として運営していくための意識付けとして、非常に有意義な例会となりました。

7月 例会

担当 例会委員会



7月29日午後6時から7月例会を行ないました。

今回は「納涼例会 I・D・O 例会」のテーマで、より一層の親睦を図るため、エクラを飛び出して”ふれあいの館「フォレスト・ミオ」において移動例会としました。40名近くの方に参加をいただき、最初はバーベキューをしながら、市民活動談義に花を咲かせました。

中盤には、各テーブル対抗のスイカ割りのゲームも行い大いに盛り上がりました。予定していた時間も、瞬間に過ぎて、楽しい時間を過ごすことができました。

たまには、場所を変えての例会も新鮮でした。材料、飲み物の準備、会場設営を下された例会委員会の皆さんお疲れ様でした。

事務局より

受託事業の1つである第29回小野まつりが終了しました。クスクスアルシェが小野まつりの事務を受託し始めて3年。毎年、新しい試みがなされています。今年もたくさんのボランティアスタッフに支えられ、約14万人の来場者をお迎えすることができました。

また、8月26日には国体を花で迎ようというコンセプトで「北はりま花と緑のおもてなしフォーラム」を北播磨県民局との参画と協働により開催し、新しいネットワークが広がりと感じています。

9月からはエクラが全日開館(施設点検日の第4火曜日、年末年始を除く)となり、指定管理者として事務局も新しい体制で臨んでいます。

2005年10月から始めたブログも、この約1年間、広報委員や各担当が協力しながら1日もかかさず更新しています。これからも様々な情報や、現場の生の声をお届けしていきたいと思っておりますので、どうぞご期待ください。